

ならしみんだよりに掲載された

「奈良市の決算と財政状況」に関する記事の内容について

～ 平成22年度～令和元年度の10年度分 ～

決算年度	一般会計決算額	財政状況等の評価にかかわる見出し
H22	実質収支 6.9億円	特になし
H23	実質収支 6.9億円	特になし
H24	黒字 6.7億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は、6億7千万円の黒字決算となりました 人件費は3年連続の減少、投資的経費は2年連続の減少 経常収支比率が改善、健全化判断比率は全て改善しました 各指標は、いずれも早期健全化基準を下回りました 資金不足を生じている公営企業会計はありません 将来負担比率が200%を下回り、目標を3年前倒しで達成 将来負担比率は、毎年確実に改善しています
H25	黒字 10.8億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は、10億8千万円の黒字決算に 人件費は4年連続削減も、公債費・扶助費等が増加 経常収支比率とすべての健全化判断比率が改善 市税収入低迷の中、「実質的」な借金を縮減 将来負担は毎年度着実に減少 進む行政効率化とコストの縮減
H26	黒字 6.0億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は、6億8百万円の黒字決算に 人件費は5年連続削減も、公債費・扶助費等が増加 財政の健全化を進めています 「実質的」な借金を縮減 将来負担比率は毎年度着実に減少
H27	黒字 23.0億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は、23億500万円の黒字決算に 扶助費等が増加するも、人件費は6年連続削減 民間委託の推進、業務の効率化により、行政サービスの水準を維持しながら職員数の適正化等人件費削減に取り組んでいます Q. 奈良市の財政状況はいいの？悪いの？ A. 依然厳しい財政状況です。一方で財政健全化への取組を着々と進めており、成果が出ています

		<ul style="list-style-type: none"> 「実質的な借金（市債残高）」は前年度比で82億円削減 将来負担比率も着実に減少
H28	黒字 9.7億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計については9億73百万円の黒字決算に 経常収支比率は100%を超過も、その他の財政指標は引き続き改善 市債（借金）残高は、全会計ベースで減少傾向 一般会計は9億73百万円の黒字決算に 人件費を7年連続削減するも、扶助費等が増加 市債（借金）残高は、全会計ベースで減少傾向 将来負担比率は毎年度確実に減少
H29	黒字 10.6億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は10億6,400万円の黒字決算に 経常収支比率はわずかながら改善し、100.7% その他の財政指標は引き続き改善しています 市債（借金）残高は、全会計ベースで減少傾向を続けています 一般会計は10億6,400万円の黒字決算に 職員数と残業時間を計画的に減らし、人件費を削減 市債（借金）残高は、全会計ベースで減少傾向 将来負担比率は毎年度確実に減少
H30	黒字 10.1億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は10億1,144万円の黒字決算に 市債（借金）残高は減少傾向 将来負担比率は毎年度確実に改善
R1	黒字 11.3億円	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計は11億3,669万円の黒字決算に 市債（借金）残高は減少傾向 将来負担比率は毎年度確実に改善

【その他の関連事項】

- ◇ 平成24年度決算分から紙面の体裁が変化
※市長2期目・1年目の「ならしみんだより平成25年11月号」より
- ◇ 掲載ページ数：平成22～29年度分：4ページ／平成30～令和元年度分：2ページ
- ◇ 奈良市は、近畿財務局より、直近10年間において、平成21、25、30年度の合計3回、決算における財務状況把握ヒアリングを受けている。
近畿財務局はその結果概要の公開を推奨しているが、奈良市においては未公開である。尚、平成21年度分の結果概要データはすでに廃棄されている。

令和2年12月4日

作成者 山出哲史